

ポップスレー
 メドレー
 バレー
 キャバレー
 フレー
 プレー
 フェアプレー
 スプレー
 ディスプレー
 スタンドプレー
 ファインプレー
 ベレー
 リレー
 バンガロー
 スロー
 ストロー
 ヒーロー
 ラッシュアワー
 タワー
 パワー
 シャワー
 カリフラワー

あとがき

一般の辞書では、語は、語頭の文字を基準として、五十音やアルファベットなどの順に従って配列されている。この配列法は辞書編纂上の習慣としてはほぼ確立しており、特別の場合以外は、現在ほとんどの言語の辞書に適用されている。

本書においては、凡例に見られる様に、語末の文字を基準として五十音順に配列した。語末が同じならば後から2番目、2番目も同じならば3番目という様に普通の辞書とは反対に、視点を順次さかのぼらせる方法である。従って、普通の辞書では互に関係なく配列されている「書く」、「聞く」、「咲く」などの五段活用動詞や、「穏やか」、「速やか」、「冷やか」など一群の語がまとまって並ぶことになる。こうした逆配列によるものは、従来の辞書と補い合う資料として、いろいろ役立つと思われる。

こうした配列の実際については、次の様な研究や辞書を参照した。

植村俊亮「電子計算機による自動索引の研究（上）」（『電子技術総合研究所研究報告』第743号、昭和49年）

郡司利男『英語学習逆引辞典』開文社、昭和52年改訂版

重野安禪、三島毅、服部宇之吉『漢和大事典』三省堂、明治40年の版

西尾寅弥、宮島達夫「語末からの逆びきによる動詞・形容詞」（『国立国語研究所資料集』7、秀英出版、昭和46年）

山田忠雄「語末辞書として見た『韻さぐり』」（正岡子規『韻さぐり』葉根出版、昭和46年）

『佩文韻府』吉川弘文館、明治41年

『伊呂波略韻平仄大成』宝永7年

言語研究の資料としての逆配列索引を始めて知ったのは、比較言語学の講義でフロズニーの業績を聴いたときであった。その後、日本語逆配列索引の作製を計画したこともあったが、そのときは個人的事情のため断念せざるを得なかった。新しく二人によって、本書がこの様な形で計画されたのは、昭和51年の夏のことであった。今度はうまく事が運び、試行錯誤をくり返しながらも、ここまでたどりつくことができた。これは、資料とした岩波国語辞典の使用を快くお認め下さった岩波書店並びに編者の方々の御好意をはじめ、多くの人の理解と協力によるものである。特にカードをとるのを協力していただいた方の氏名を明記して、感謝の意を表したい。本書は二人の共編ということになってはいるが、以下の諸姉

の協力がなかったら、本書の完成はまだずっと先のことになっていただろう。

| | | | |
|-------|--------|-------|-------|
| 有馬かおる | 伊左次まなみ | 石原 史子 | 市川 孝子 |
| 井上 秀代 | 上田加代子 | 上地みどり | 春日 咲子 |
| 倉田 育子 | 小山 恵子 | 近藤美智子 | 佐野 裕子 |
| 佐橋 美典 | 篠木 純子 | 島 充代 | 鈴木 敬子 |
| 鈴木 淳子 | 鈴木 好子 | 高井 直子 | 高須貴美子 |
| 竹内 朋子 | 竹内 春美 | 竹林千賀子 | 田島 淳子 |
| 田中 文江 | 千頭和ひとみ | 土屋美登里 | 堂地 芳美 |
| 永井 幸子 | 中川 貴代 | 中野恵理子 | 中村 広子 |
| 中村由理子 | 西山 祥子 | 日東 智子 | 野田 好美 |
| 服部 恭子 | 林 のり子 | 尾藤ひとみ | 福田ともよ |
| 福谷 京子 | 前田あさみ | 松原三津子 | 松村由美子 |
| 村松美保子 | 山口 訓代 | 山田 順子 | 山田三千代 |
| 若菜あや子 | | | |

最後に、本書の出版に際しては笠間書院の池田猛雄氏に種々お世話になった。
心より御礼申し上げたい。

昭和52年9月

丹 羽 一 彌

(校正を終って)

本篇は底本たる「岩波国語辞典第二版」にできるだけ忠実たらしめた。校正中、しばしばわれわれの普通に考えている語形と異なるものがあった。底本にあたり直すと、その普通と思う語形も「…ともいう」という形で示されていることが多かった。それを一項として立てるのも一つの行き方であるが、今回はそれはみおくれた。その点、不審を招きかねないので一言お断りする。

また、複合語等で、同一部分を表わすのに別の漢字が宛てられていることがかなり目についた。それは底本編者の意のあるところもあると考えられる。しかし、それ以外に、実は二種類以上の漢字表記が示されている場合に、本篇で、その第一のもののみを掲げたことがその原因になっていることもかなりあるので、特にことわっておきたい。

そのほか、()内注記にも、品詞名等を記したものは、底本に二つ以上あるものも一つしか書いてない。

以上のごとき点、校正中に強く感じ、もし再版、改訂ということを考えることがある場合には充分考慮すべきものであるが、今回はむしろ底本の姿を忠実に伝えること(とはいえ、ミスのあることは避けがたいが)に最重点を置いた。一言申し添える。

(田 島 毓 堂 識)

●編者紹介

田島毓堂 (たじま いくどう)

昭和15年5月 生れる
昭和43年3月 名古屋大学大学院博士課程単位取得
昭和48年3月 文学博士(名古屋大学)
現 在 名古屋大学助教授
専 攻 国語学
編 著 書 「道元禪師全集」(上・下)索引「後撰和歌集研究史」「源氏物語絵巻詞書総索引」「正法眼蔵の国語学的研究」其他
現 住 所 〒450 名古屋市中村区名駅2丁目28番7号

丹羽一彌 (にわ かずや)

昭和14年9月 生れる
昭和43年3月 名古屋大学大学院修士課程修了
現 在 東海学園女子短期大学助教授
専 攻 言語学
著 書・論 文 「ことばへの接近」「フランス語の文構造と副詞」(「ロマンス語研究」6, 1972)「トル・ヨル考」(「東海学園国語国文」11, 1977) 其他
現 住 所 〒487 春日井市白山町170街区2

にほんごびわんさくいん
日本語尾音索引 一現代語篇一 ●笠間索引叢刊 65

昭和53年9月30日 初版発行 ￥7,000

検印
省略

共 編 田島毓堂
丹羽一彌 ©
発行者 池田猛雄

発行所 有限会社 笠間書院
〒101 東京都千代田区神田神保町1-46
電話03-295-1331(代) 振替東京1-56002

3381-852065-0924

三美印刷・手塚製本所